

## 有限会社 岡田工務店

ユーザー訪問

三戸郡三戸町沼尻  
2011年1月竣工  
(リフォーム)

谷地 様邸

DATA

■使用青森県産材／スギ(柱、垂木、桁など)、  
ヒバ(土台)。



築58年になる木造住宅の居間をメインにリフォームした。居間は、家が建てられた当初は土間で、後に床と、その上部の吹き抜けに天井を張って部屋にしたもの。今回、リフォームするにあたり、天井の位置を、かつての吹き抜けに架けられてあつた梁の高さまで引き上げて張ることにした。この家で生まれ育つた施主が、子供のころに見ていた懐かしいアカマツの梁が、現代風に新しく生まれ変わった居間の天井に、重厚なまま蘇った。

### 山林から伐り出した木 5、6年寝かせて乾燥

ご主人の話 風呂場を直そう——と話が持ち上がったことが、リフォームに取りかかるきっかけでした。ホーローの浴槽の底に付いた傷から、サビが入り込んで、それがだんだんと広がって水が漏れるようになっていたので、それを直そうと。

でも、なにぶん家がもう築58年(昭和28年竣工)と古いので、傷んでいるのは風呂場だけではありませんでした。台所も排水

パイプから水漏れがしていました、たし、そこも一緒に直そうということになりました。そして、もう一つ、この際にトイレも



古い梁や鴨居を生かしつつ、新築同様に生まれ変わった居間と台所



もともとは土間だったという居間は、リフォームによって現代的な空間に姿を変えた

水洗に直そうという要望も加わったんです。最初に考えていた予算から、だんだんと金額が増えていくのは気にはなりませんが、手をかけるなら一遍にまとめてやった方が経済的だと思います、工事を設備屋さんに頼むことにしました。

ところが、工事をするには設備屋さんだけでなく、大工さんの手もかかることが分かりました。大工さんといわれてすぐに思い浮かんだのが、うちの長男の中学のときの同期生だった岡田さん(岡田大作氏)でした。いまは岡田工務店の専務さんです。社長はお父さんで、中学のPTAでお会いして面識がありました。頼むなら知っている人が安心ですから、岡田専務さんに一度家を見てもらおうことにしました。

奥様の話 もともとここは(居間の床を指さして)土間だったんですよ。結婚前に、家を見に来たことがあったんですが、流しが土間にあって、びっくりし

ました。わたしを迎えるために床を張って部屋にしたんだそうですね。

ご主人の話 この家を建てたのは私の祖父です。祖父が、息子に、つまり私の父ですね、お嫁さんをもらうために家を新築したんだそうで、使った木はみな周囲の山林から伐り出したものだそうです。ご先祖さんたちが代々植えて育ててきた木ですね。伐ってから5年も6年も寝かせて乾燥させ、それから2年がかりでこの家を建てたんだとか。

建てた大工さんは、このあたりでは「まご大工」と呼ばれる棟梁で、大工になるにはその人に弟子入りして修行する、いわば大工の「本家」のような大工様です。

## 梁を縦横に組んだ吹抜木のピラミッドのよう

岡田専務の話 谷地様からリフォームの件で電話をいただいたので、お宅におじゃましたときに、

「居間の天井が低いな」と感じ  
たんです。外から眺めた入母屋  
の屋根が見上げるくらいに高  
かったから、それでなおさら居  
間の天井が低く見えたんで  
しょう。この居間は、奥様が言  
われたように、もともとは土間  
で、そこに床を張り、差鴨居さ  
し(がもい)の上端(うわば)の高  
さに合わせて天井を張ったもの  
です。天井を張る前は、隣室の  
「ジョイ」と同様に、上部は吹き  
抜けだったんですね。

「ご先祖の遺影が飾られてあ  
る『ジョイ』を拝見したら、高い  
吹き抜けに梁を縦横に組み合  
わせ、まるで木のピラミッドの  
ように構築されていました。そ  
れで、ひよつとしたら、居間の天  
井裏にも同様の梁があるので  
はと、見てみたら、思ったとおり  
の見事な梁が架けられてあり  
ました。アカマツの曲がりを生  
かし、チョウナ(手斧)がけた  
味わいのある梁です。その梁を  
「表わし」にして、その上に新た  
に天井を張れば、昔の梁を生か

した空間に生まれ変わるこ  
ができます。そう思い、居間の  
リフォームをお奨めしたので  
す。

ご主人の話 かかった費用は  
計画当初の金額よりもゼロが一  
つ多くはなりましたけれど、結  
果的には、いつもいる居間を現  
代風にリフォームしたことで家

全体が新しくなったような感  
じになり、正解でした。叔父た  
ちも、子供だったころに目にし  
ていた土間の梁が、昔のままに  
居間の天井に蘇ったので、「よく  
生かしてくれた」と口々に喜ん  
でくれました。自分たちが生ま  
れ育った家を、大事に守って  
くれていることに感謝の気持ち

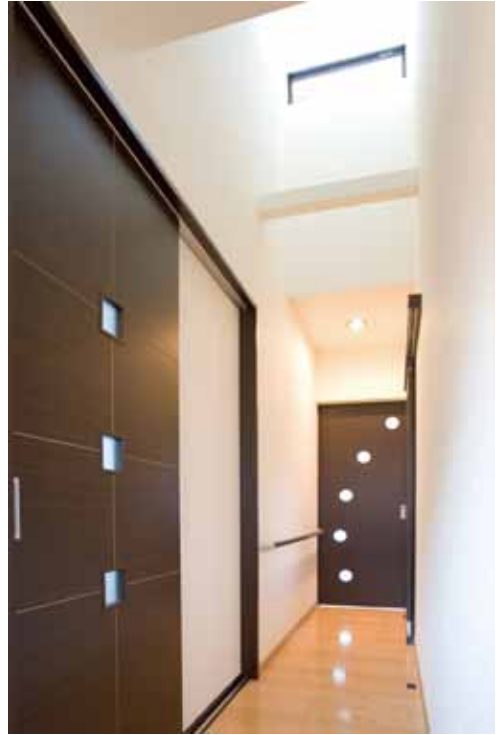
込められているように感じま  
した。  
奥様の話 うちの長男が、ここ  
で一緒に暮らしていたころには  
口には「しませんでしたが、「この  
家が好きだ」と言ったことがあ  
るんです。今住んでいる神奈川  
の横浜から帰省したときに、ぼ  
そりとそう言ったんですよ。家



天井を引き上げることで昔のまま蘇った居間の梁



玄関回りもリフォーム



新しくなった両親の居室



竣工した昭和28年、新築祝いに配られた南部鉄瓶

を出て、遠く離れたところで暮らしていると、帰る家があるということは、心の支えになっているんでしょね。それが、「好きだ」という言葉になったように思えますね。

ご主人の話 あと40年たつて、築100年になつても、この家はまだまだちゃんと建っているでしょう。まご大工が2年がかりで魂を込めて建てた家ですからね。それと、昔からこの土地を守ってきた先祖たちが、家にも宿っていて、ここに暮らす私たちを見守ってくれている、そんな気がしますね。壊すなんてとんでもありません。

## OK 株式会社 岡田工務店

三戸郡三戸町大字川守田字東張渡48-1  
 TEL.0179-23-6727 FAX.0179-23-6728  
<http://www14.plala.or.jp/bigmake/>  
 E-mail : okada.office@orchid.plala.or.jp



# 有限会社 織笠工務店

ユーザー訪問

上北郡東北町旭南  
2011年8月竣工

竹内 様邸

DATA

- 延べ床面積／33.00坪(109.93㎡)
- 使用青森県産材／ヒバ(土台)、スギ(柱、桁、下地材など)、カラマツ(梁)。



地元の家には、地元の木を使う。地元で育った樹木から製材した木が一番よく合うことは「大工の手」が知っている。家が古くなっても、木材は、家よりもはるかに長生きした樹を製材したものだから、鮑(かんな)をかければ再生できる。それを生かしてまた使える。山と家と人はつながって、一つの地域の中で共存しているのだ。だからこそ地元工務店として県産材にこだわる——織笠工務店の3代目・織笠拓重社長の信条である。

## 県産材エコポイントで隣家との境界に木の塀

織笠社長の話 プランをこしらえてみましょうか。でも、図面を描いたからといって決めて頂かなくても結構ですよ——いつもそう話すようにしています。竹内様(女性)が、当社の事務所を訪ねてこられたときにもそう話しました。竹内様は、

私が10年ほど前にリフォームの仕事させていただいた町内(東北町)のE様のお知り合いの方で、竹内様がE様に住宅新築の相談をしたところ、私を紹介してくださいましたので、展示場とか見学会とかあちこち見学されたようなのですけど、どうもいまいちピンとくるものがなくて、それでE様に相談されたというわけです。

プランをつくるにあたり、竹内様が購入されていた土地(当社のすぐ近くでした)を拝見しました。北向きの広い土地で、ゆくゆくは畑づくりをしたいというスペースを南側に空けておき、道路に面した北側には車庫を取る、というラ



部屋をコの字型に配置し中央に庭を設けた「中庭の見える家」

フプランが頭に浮かんできました。

部屋をコの字型に配置し、その中央に庭を設けて、各部屋から透明の窓ガラス越しに見えるようにしました。名付けて「中庭の見える家」。竹内様にそ

のプランをお見せしたら、パツとお顔を輝かせるようにして気に入ってくださいました。畑仕事で長靴に付着した土も中庭で洗い落とせますし、収穫物もとりあえずそこに積んでおけます。夏にはお仲間を呼んでバーベキューも楽しめますし、洗濯物を干しておいても視線が遮られていますから気になりませんしね。

「これでお願います」

と竹内様、ようやく決まってホツとしたというようなお顔をされていました。

その時点で竹内様に、県産材を使って家を建てることの特典について説明しました。特典は二つあって、一つは家具・建具などの木工品と交換できる「県産材エコポイント」、もう一つは（2011年度限りですが）現金がもらえる「地域材活用促進支援」で、県産材の需要を高めるための県の支援策なんです。エコポイントは県産材1立方メートルにつき1ポイントが発



エコポイントを活用して立てられたカラマツの塀

行され、最大で30ポイント、1ポイント当たり7000円相当ですから21万円分の木工品と交換できるんです。ポイントは、使用した木材（認証県産材）の量が決まります。竹内様の場合は30坪ですので、それに応じて9万円分のカラマツの木塀を立てることにしました。隣家との境のカラマツの塀がそうです。それとキャッシュバックは15万円です。これを聞いて、「すっごく得した気分」って竹内様、喜んでいましたよ。

### 地元の木だから長持ち 鉋がけして再生利用

私が県産材にこだわるのは、大工だった祖父につながっています。父が2代目、私が3代目です。祖父が何十年前前に建てた家であれば、その施主様からリフォームの声がかかっても、その家の屋根裏とか床下とか壁の中の構造部分を特に下見しなくても安心して仕事を引き受けられます。なぜかとい



大きな開口部から中庭が臨める明るく広々としたリビングルーム



リビングから水回りへの動線がスムーズ

ますと、その当時、祖父が建てた家なら、外材は使っていない（外材は入ってきていない）からです。築60年70年経っていても、使っている木は、樹齢200年とか300年とかの地元（の山）の樹を製材したもので、いくら表面が古くなっても鉋をかければ新品に生まれ変わるので、これかもし外材なら、どうなっているかは保証できません。解体してみたら腐ってい

たとかね。海の方から運んできた木が、気候の違う土地で果たしてどこまで持つか。地元の木だからこそ長持ちするのです。

家って、建てたあとからお付き合いが始まるんです。建具の開け閉めが渋くなったとか、床が鳴るとか、そういうちょっとした支障でもあれば快適さはなくなるものです。速やかに対応できるところに地元工務店



の存在価値があるのだと思う  
 のです。  
 地域があつて仕事に恵まれて  
 いるのですから、地域と共に在  
 り続けなければなりません。

そういう付き合いをずっと  
 継承していくためにも、家づく  
 りには長持ちする県産材を使  
 うことが前提として求められ  
 るのです。



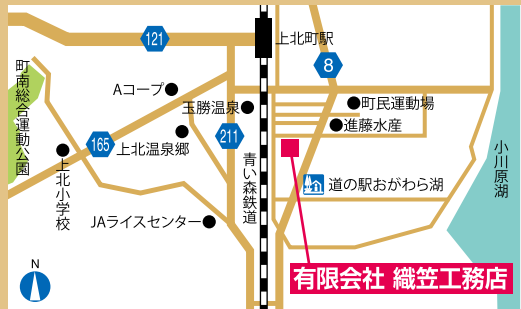
各部屋の床や棚、収納スペースにも県産材がふんだんに使用されている



東北町

**有限会社 織笠工務店**

上北郡東北町旭南1丁目384-1  
 TEL.0176-56-3915 FAX.0176-56-4195  
 E-mail : orikasak@r66.7-dj.com





## 建築組パックス 有限会社

ユーザー訪問

八戸市石堂  
2011年9月竣工

田名部 様邸

DATA

- 延べ床面積／38.82坪(128.60㎡)
- 使用青森県産材／スギ(柱、2階床、ポーチ)、セン(7寸角の通し柱)、ケヤキ(柱)、カラマツ(1階床、梁)。



木の家を建てたい、というよりも、「自然素材に囲まれた暮らし」がしたい、という思いの方が先だったという田名部様。「自然に優しいオーガニックタオルなど、農薬や化学肥料に頼らずに有機栽培の原料でつくった物を採り入れるライフスタイルです」とご主人は話す。オーガニックとは、自然の土壌の持つ力を生かして栽培する農法。この考え方は、人間の体にも当てはまることで、自然のものに包まれた日常生活は、人間に本来備わっている力を生かす。同じ意見のご夫婦が選んだ生活空間は、無垢材の持つ良さを引き出して建てる建築組パックスの家であった。

**更新するブログを読む  
知らず知らず親しみが**

**ご主人の話** パックス(建築組パックス)のことは、インターネットで検索してみても知りまし



無垢材の持つ温かさが伝わってくるスギの床



種差海岸のクロマツが張り付けられた個性あふれる2階の手すり

た。大西さん（大西昇社長）のブログを読むようになったのは、それからです。ブログを毎日更新しているんです、日記みたいに。今取りかかっている現場の進み具合とか、家づくりに対する一級建築士としての考えなどが綴られてあるので、読み続けているうちに、大西さんの仕事ぶりとか人柄が伝わってきて、知らず知らず親しみのようなものが育ってきたわけです。

大西さんと初めてお会いしたのは、八戸市内の団地で開かれた構造見学会に行ったときです。話をしているうちに、大西さん、私がブログを読んでいると分かったんでしょう、初対面でしたが盛り上がりましたよ。毎日ブログを更新している人ってそういないんじゃないでしょうか。普通、できませんね。そこに熱意を感じました。それと、驚いたことには、家具屋を営んでいる私の中学のときの同級生が、パックスの仕事をしていたんです。そうと知って、内

心、パックスに縁があるなと思いました。

## 自然素材の木の家を 建てられる範囲内で

**奥様の話** 主人が話しましたように、以前から田舎暮らしとか保存食とか、自給自足の生活といったものに興味があったんです。要は「自然のもの」ですよ。当然、家も、自然素材の木でできた家となります。娘がアレルギーだったことも自然素材に関心が高まった理由ですね。

**ご主人の話** 木の家は高い、という声は聞かえてきてはいましたけど、でも、値段が予算内で収まるのであれば、極端に狭くない限りは、自分たちで建てられる範囲内で木の家を建てようと考えていました。予算内で収めるために多少狭くなったとしても、木へのこだわりはなくせません。建てるのは木の家、建ててもらおうのはパックスの大西さん、と決めていました。他社と値段を比べるつもりもあり

ませんでした。

**大西社長の話**（リビングの吹き抜けを見上げて）2階の手すりに、デザインで曲がりの板を張り付けてあります。この板、種差海岸のクロマツなんです。種差海岸は貴重な植物が多く育っているから、マツの樹林が育ちすぎて日陰が広がると植物の生長に影響が出るということで、伐採することになったんです。その仕事を請けた森林組合の職員から、伐採するだけではもったいないので使わないか、と電話がきたんです。梁に使える曲がりのあるいいクロマツを譲り受けて、それを手すりにも使ったのです。

**奥様の話** 家が完成する前に住んでいたアパートの近くに、外壁に板を張った家が建っていました。公園のすぐそばで、娘を連れたりして公園へ行くたびに気が付くとその家を眺めているんですよ。板を張った感じに惹かれていたんですね。後になって、その家はパックスが



自然素材に包まれた家はアレルギーをかかえた娘さんの体にも優しい

建てたんだと知りました。パックスの「施工例」に載っていたんです。自分の家も板壁にしようといメージが固まりました。

**ご主人の話** 板壁の家、無垢材の床や梁や天井、自然素材に囲まれた暮らし、薪ストーブ——要望するものがパックスに



人の気持ちも温かくしてくれる薪ストーブの炎

は全部備わっています。正式にお願いすることに決めて、パックスの展示場を訪ねたのが2010年の11月14日です(ご主人のノートにそう書いてある)。その日に、大西さんと第1回目の打ち合わせをしてきました。

**奥様の話** 薪ストーブの試験焚きのときに、主人が記念になるからと、4歳の娘に火を点けさせたんです。焚き付けの木材から燃え上がった炎を、娘が身動きせずにじっと見つめていました。その炎は、娘が大人になっても記憶の中で燃え続けているんじゃないでしょうか。良い思い出になりました。

**PACS**  
Perfect Architecture Consulting System

## 建築組パックス株式会社

八戸市大字新井田字石動木平1-1  
TEL.0178-25-6020 FAX.0178-25-5542  
http://www11.ocn.ne.jp/~pacs  
E-mail:pacs@sage.ocn.ne.jp



## 企業組合 県木住

ユーザー訪問

青森市八ツ役  
2011年10月竣工

### 金澤様邸

DATA

- 延べ床面積／63.49坪(210.33㎡)
- 使用青森県産材／ヒバ(土台)、スギ(柱、床、外壁)、アカマツ(梁)。



居間の掃出し窓から、一面に広がる田園風景が眺められる。その先を東西に横切っている高架道路は東北自動車道だ。居間を、あえて北向きにすることによって、自動車道の向こうにアスパムまで望める見晴らしが得られた金澤様邸。春は、居間から窓越しに見える水田の苗が次第に緑の濃さを増していき、夏には夜景の果てにねぶた祭の花火が打ち上がり、冬になれば薪ストーブの炎の揺らめきが暮らした季節ごとの彩りを添えてくれる。

「県木住いいんじゃない  
あったかそうな木の家」

ご主人の話 もう何年も前のことですが、幸畑(青森市)に以前あった県木住の「展示場」を見に行ったことがあります。家を建て替えるのはまだ先の予定でしたが、新聞広告などで目にして山荘風の展示場を一度見学してみたいと思っていた



仕切りの襖を収納すると開放的な空間が広がる和のスペース

んです。車で家内と行ってみたら、駐車場の場所がよく分からなくて、結局は入らずに外から眺めただけで帰ってきたんですが、その山荘風の外観に家内が好印象を抱いていたとは、後になってから知りました。

**奥様の話** 家については主人に一存でしたから、わたしからは特に何も言いませんでしたけど、いよいよ建て替える時期がやってきて、主人がどこの工務店に依頼したらいいか思案しているときに、「県木住がいいんじゃない」とだけは言ったんですよ。主人と見に行つた展示場のことがずっと印象に残っていたんです。山荘がいいというよりも、木で建てた家がいいな、って思っていましたからね。木って、あったかそうですね。『あったかい木の家』がほしかったです。

**ご主人の話** インターネットで県木住を検索してみたら、ホームページの『建築ポリシー』にこう書かれていました。『風の

強い地域、雪の多い地域など、それぞれの気候風土に合うように、家は昔から地域の山に育つた木を使うことによって適合してきたが、現代はどの地方に行っても同じような多国籍住宅の町並みになっている』と。『だから県木住は近くの山の木を使った家づくりにこだわりたい』と。

一読して、真面目(まじめ)だなと感じましたね。地域を大切に行っている企業姿勢が伝わってきました。長い間、農業に携わる仕事をしてきた私にとっては『地産地消』が当然の選択だったのかもしれない。

それと、『営業エリアは狭いです』には、正直さを感じました。青森市から車で片道2時間以内で行ける範囲が応じられる施工エリア、というのです。なぜなら、『急用でお客様から連絡を頂いた時、その日にお伺いできなければご迷惑をおかけしてしまうから』。そう明示している姿勢が正直です。真面



あえて北側に配置されたリビングは、開口部を大きく取って暗さを解消



薪ストーブの炎の揺らめきが暮らしに彩りを与えてくれる



木の温もりがあふれる書斎とサニタリーコーナー

目で、正直であれば、信頼できます。事務所を訪ねてみることにしました。分厚いヒバのテーブルが置いてある応接室で応対してくれたのが、山崎さんでした。その日から新築計画が動き出したのです。

**『北側リビング』に決定  
窓を大きくし暗さ解消**

ご主人の話 間取りには、じっくりと時間をかけました。最初に提案されたプランは、居間が庭と幹線道路に面していました。陽当たりの良い南側に居間



を設けるのは基本でしょうし、私たちもそう考えていたのですが、でも、南に居間を持つてくると、他の部分がどうしても気持

ちよく納まらないんですね。南側を居間にするか、母親の部屋にするか、何度となくやり直しました。あれこれ考えた末に、そ

れまでとガラリと変化させて、これはどうでしょう、と作つてくれたプランが『北側リビングの家』でした。

つまり、居間を北向きにするのです。北向きとなると、どうしても「暗い」「寒い」というイメージがつかまえますが、それさえ除けば、あとは全部要望どおりに納まるのです。

北側リビング案では、交通量の多い道路の騒音が気にならないこと、農地を眺めるロケーションが生かせること、それに通年安定した光が得られるので暗さはない——と強調します。それで、決めました。こういうときはやはり専門家の一押しは必要なものだ実感しましたね。

**奥様の話** おばあちゃんの部屋を南向きにして正解でした。お友だちが訪ねてくれば、玄関からではなく窓を開けてウッドデッキで話ができますし、天気の良い日は居ながらにして日向ぼっこできますしね。

居間は北向きですけれどちつとも暗くないし、床のスギは柔らかくて心地いいし、念願どおりの「あつたかい木の家」ができました。



ウッドデッキはおばあちゃんの憩いのスペース



# 企業組合 県木住

## ユーザー訪問

南津軽郡藤崎町  
2011年9月竣工

とち  
ない  
榎 内 様邸

### DATA

- 延べ床面積／30.00坪(99.37㎡)
- 使用青森県産材／ヒバ(土台)、スギ(柱、床、外壁)、アカマツ(梁)。



板張りの外壁から煙突が立ち上がっている——「見して「県木住の家」と察しがつく外観写真が載った完成見学会の新聞広告に、『施主参加の家づくり』とあった。ご夫婦で外壁に張るスギ板に塗装をし、室内の床のスギ板にも自然塗料を塗った。薪ストーブを設置した広い玄関土間の式台も、6寸角の大黒柱に使ったスギも、施主自らチェンソーで伐り倒したスギが使われている。参加することによって「住む前から愛着がわいた」とご満悦な木の家である。

## 「あつたかさ」を求めて 出合った自然の木の色

**奥様の話** 「どんな家を建てたか」ではなく、逆に、「どんな家を建てたか」と聞かれれば、即座に「寒くて、足が冷たい家」と答えます。昔の家って、ストーブのある居間だけは暖かいけど一歩出れば冷や冷やして、体がこわばるし、廊下は

スリッパなしでは歩けないくらい冷たいし、思い浮かべただけでも寒くなってきたそうです。そういう家は絶対建てたくないって思っていました。

**ご主人の話** 子供が生まれたら家を建てる計画でした。親の家をリフォームして同居する考えも当初はあつたんですが、敷地内に新築するスペースがありませんでしたから、そこに建てることに落ち着きました。どんな家にするかは、家にいる時間が長い妻の要望を優先させるこ



施主夫妻が塗装したという外壁のスギ板



床のスギ板には自然塗料が塗られている



スギとアカマツの木肌が“あたたかさ”を伝えてくれるリビングルーム

とにして、まずはハウスメーカーの展示場とか、新聞広告の現場見学会を見て歩いたんですけど、妻が求めていた「あたたかさ」が伝わってくる家はありませんでした。

がなかったんです。  
**ご主人の話** ネットで、県木住の見学会があることを知りまして、2人で見に行ってみました。板を張った外壁の感じが良かったです。中に入ったら、床も板、壁も板でした。職員のほうが、スギだと教えてくれました。赤味をおびたスギの色がとってまああったかそうでした。あ、これだなって。つまりは、自然の木の色があったかいいんだって気持ちになりましたね。

**奥様の話** 「スギは柔らかいか



玄関の土間に設置された薪ストーブ



施主自ら伐り出したスギを使用した6寸角の大黒柱

らキズが付きやすい難点はあるけど、柔らかいからあったかいです」と、さきほどの職員が説明してくれました。新しいうちは気にはなるかもしれないけど、でも、誰かがそこで暮らしていれば床だけでなく

壁だってキズがついたり汚れたりするでしょう。それよりも、子供が腹這いになつても体に害のない無垢材の方が安全ですし、安心ですよ。いくら表面が堅くてキズが付きにくいからといって、あの表面がピカピカ

した板(化粧合板フロア)の冷たさだけはいやでしたね。この時点で、わたしも主人も、床はスギと決めたんです。あとは自然に県木住さんに建てていただく流れになりました。すっかり木の家が気に入ってしまっ

て、完成見学会のお家を全部で5軒も見させていただきました。

## チェンソーでスギ伐採 大樹倒れる迫力に感動

**ご主人の話** 「伐ってみますか」って佐藤さん(佐藤理事長)から電話がきました。チェンソーでスギの樹を伐ろうというのです。チェンソーは使った経験があるので「やります」と答えたんですが、その日は2月で、大釈迦の国道から入った山林も大雪でした。

生まれて10か月になる子供を背負って参加した妻も、初めはチェンソーに挑戦するつもりだったんですけど、風に吹き飛ばされて高い枝から落ちてくる雪から子供を守らなければならぬので、それどころではありませんでした。

森林組合の方(県森林組合津軽木材流通センター・工藤所長)から指導を受けながら、樹齢50年くらいに挑戦しました。見上げるほど高い(約20



玄関の式台にも施主が伐り出したスギが使用されている



スギの伐採に挑戦する施主の棚内様(右)

メートル)樹が、ねらったところの方向に倒れていって、ドーンと跳ねると同時に雪煙が上がりました。すごい迫力！感動しましたね。そのときに倒れたスギが、大黒柱と玄関の式台になりました。

も、床のスギにも自然塗料を塗りました。それから玄関のタタキにデザインのガラスも埋め込みましたし、「施主参加型」のメニューを全部こなしましたよ。フルコースです。これから10年経っても20年経っても記憶に残るというよりは、手の記憶に残るような気がしますね。住む前から愛着がわきました。

近くの山の木で家をつくる 企業組合

県木住

企業組合 県木住

青森市松原1丁目16-25 (青森県森林組合会館内2F・3F)  
TEL.017-732-5333 FAX.017-732-5777  
http://www.kenmokuju.com E-mail: info@kenmokuju.com

